

牛久：学校周辺に見る自然

第8号 ひたち野西近隣公園

2015年10月30日発行

＜動物のすみかをしらべよう ～秋のみずべ公園 ⑧ その他の動物＞

9月24、29日、ひたち野うしく小3年生とのみずべ公園。テーマは「動物のすみかをしらべよう」。今回は、ここまで紹介しなかった動物たちをまとめて。



市の方たちが草を刈ってくれた後だったためか、今回はカナヘビがたくさん観察できました。

まずは、みずべ公園ではおなじみのカナヘビ（ニホンカナヘビ）。爬虫類の仲間ですね。今回は市の方々が草刈りをして下さった後だったためか、これまで私が同行した中では一番たくさん現れてくれました。日本の固有種（日本にしかない動物）で、昆虫やクモなどを食べます。



同じく爬虫類では、ヘビのぬけがらがありました。アオダイショウのようです。この公園内では、アオダイショウは時々見かけることがありますが、私はまだ他のヘビはまだ見ていません。「こんなものいたよ。」という発見がありましたら、教えてください。

小鳥やカエルが多く訪れる近くにはヘビもよく訪れるようで、大きなぬけがらがあった。うろこなどから、アオダイショウと思われる。



カタツムリはなかなか見つかりませんでしたね。やっと見つけたのがこのウスカワマイマイ。植物はヒメガマでしようか、細長い葉のとちゅうについていました。よく落ちずにこんなところまで登ってこられたなと思います。まだらもようが見えますが、じつはこれ、からが薄くて中身が透けて見えているのだそうです。それで、この名がつけました。ヒメガマ？の細長い葉についていた、ウスカワマイマイ。まだら模様はからではなく、からが薄く中身が透けてそう見えている。



大きくて触角が毛深いアブラゼミのぬけがら(左)と、全身にどろがつくニイニゼミのぬけがら(右)。

大きなヘビのぬけがらには、みんなびっくりしていましたが、こんなぬけがらもありました。多かったのは左のアブラゼミ。葉の裏や小枝などについていましたね。右は木の幹などについていて、ぬけがらには泥がついていました。ニイニゼミです。全身に泥がつくのはニイニゼミだけで、アブラゼミやミンミンゼミでは全く泥はつきません。なぜでしょう？じつは幼虫のすんでいる場所が違って、アブラゼミなどは乾燥した土地にすんでいます。ニイニゼミは湿った土地にすんでいるためぬけがらにも泥がつくのです。ぬけがらから読み取れることも、いろいろあるのですね。



これにも、みんなびっくりしてしまいましたね。なんとゴキブリがいたのです。でも、よく見ると、家庭で見かけるゴキブリとは種類が違うようです。左は大きな体で昔から日本の雑木林にすんでいるヤマトゴキブリで、昔は家の中に侵入して人間の食べ物も食べていましたが、帰化種のクロゴキブリとの競争に負けて、今では屋内で見ることほとんどなくなりました。右は落ち葉の下などで見かけるモリチャバネゴキブリで、よく似たチャバネゴキブリと違って屋内に入ることはないそうです。

クヌギの名札の裏にいたヤマトゴキブリの幼虫(左)と、落ち葉の下にいたモリチャバネゴキブリ(右)。



気持ち悪いと言われそうですが、こんなものもを見つけましたね。春にはヒキガエルのオタマジャクシで真っ黒になる池のふちに、アメリカザリガニのはさみがありました。ここにはウシガエルもいますので、それに食べられたのかもしれない。そうした水辺の死体には、アメンボが来て群がって食べます。ミミズの死体にはキンバエが群がっていました。これらの死体を処理してくれる虫たちがいなければ、公園はあちこち死体だらけになってしまうでしょう。

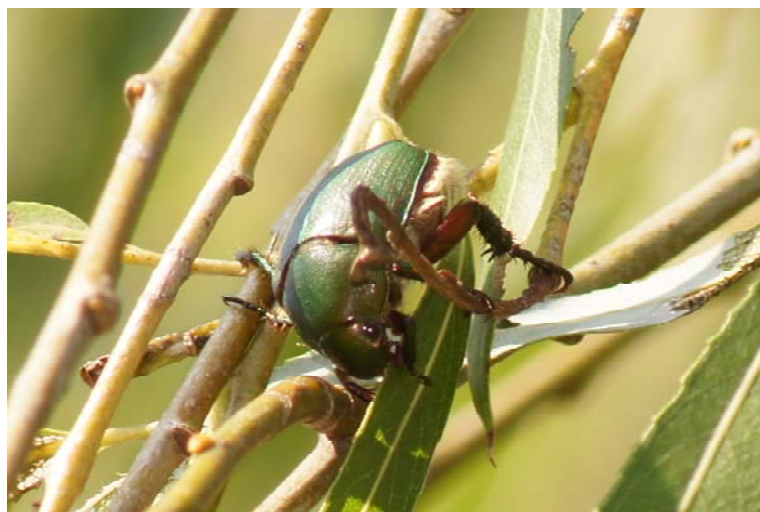
アメリカザリガニのはさみ(左上)とアメンボ(左下)、ミミズに群がるキンバエ(右)。

こんなすごいのも見つけましたね。シダレヤナギの枝にクリーム色の小さなまゆがたくさんついていましたが、よく見るとその中に包まれるように何かの幼虫らしきものが…。まゆを作ったのはコ



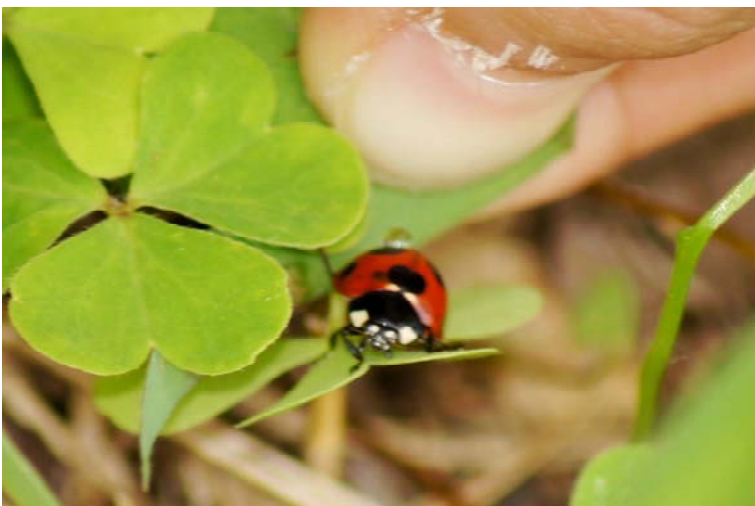
マユバチの仲間。幼虫はスズメガの仲間のウチスズメ。生きて活動しているウチスズメ幼虫に、コマユバチは卵を産みつけます。ふ化したコマユバチ幼虫はウチスズメ幼虫を食べながらその体内で成長し、やがて外に出てまゆを作るのです。その間、ウチスズメ幼虫は葉を食べ、その栄養をコマユバチ幼虫に奪われながら生き続けるのです。何とも恐ろしいですが、シダレヤナギにとっては葉を食べる幼虫をたいじしてくれるありがたい虫ですね。まゆの中でコマユバチ幼虫はさなぎになり、しばらくして羽化して成虫になり、まゆの外へ出て飛び去っていきます。

マユバチの仲間。幼虫はスズメガの仲間のウチスズメ。生きて活動しているウチスズメ幼虫に、コマユバチは卵を産みつけます。ふ化したコマユバチ幼虫はウチスズメ幼虫を食べながらその体内で成長し、やがて外に出てまゆを作るのです。その間、ウチスズメ幼虫は葉を食べ、その栄養をコマユバチ幼虫に奪われながら生き続けるのです。何とも恐ろしいですが、シダレヤナギにとっては葉を食べる幼虫をたいじしてくれるありがたい虫ですね。まゆの中でコマユバチ幼虫はさなぎになり、しばらくして羽化して成虫になり、まゆの外へ出て飛び去っていきます。



同じシダレヤナギの枝に、緑色の金属光沢が美しい甲虫がいました。ドウガネブイブイの仲間です。ヤナギに限らず、いろいろな広葉樹の葉を食べるそうです。きれいですが繁殖力も強いらしく、ヤナギにとっては困った虫なのかもしれません。

シダレヤナギの葉を食べる、アオドウガネ。緑色の金属光沢が美しい。



最後に、おなじみのナナホシテントウ。さて、テントウムシは何を食べるのでしたっけ？ そう、アブラムシでしたね（ただし、例外もあり）。成虫だけでなく幼虫もアブラムシをむしゃむしゃ食べていました。もうすぐ秋から冬へと季節は移っていきます。寒い冬の間、エサとなるアブラムシもほとんどいない冬に、テントウムシはどうして過ごしているのでしょうか？【理科支援員：宮内】カタバミの上を歩くナナホシテントウ。